

あいであ & アイデア

牛の除角に手作り枠場—作業性高まり安全に—

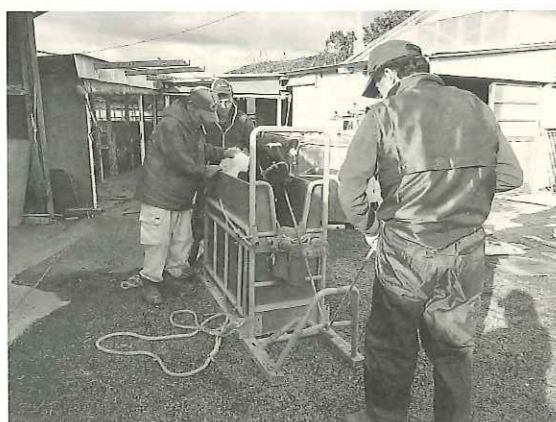
南部家畜診療所 田山 善男

はじめに

千葉県南房総市で酪農を営む牧野澄夫さん（53歳、成牛30頭、育成牛26頭）の農場では、半年に一度手作りの除角枠場が活躍中です。この画期的な枠場の導入で、除角作業の効率が飛躍的にアップしています。

除角の必要性と苦勞

乳牛は安全のために生後半年頃までに除角をしています。生えてきた角を切り取り、伸びてこないよう焼烙をするのですが、作業は人手が必要となるため近隣の酪農家が協力して行っています。なかなかおっくうな作業なのでついつい後回しになりがちで、お天気の都合や各自の予定の調整もあり、気がつけば大きくなって角も伸び、ますます作業が大変となっていました。



(写真1) 頭絡をつけた子牛を枠場に追い込みます (左上)



(写真2) 顔を穴に入れ、除角します (左下)



(写真3) 子牛が後ろに下がらないようにロープで追い込みます (右下)

除角用手作り枠場のポイント

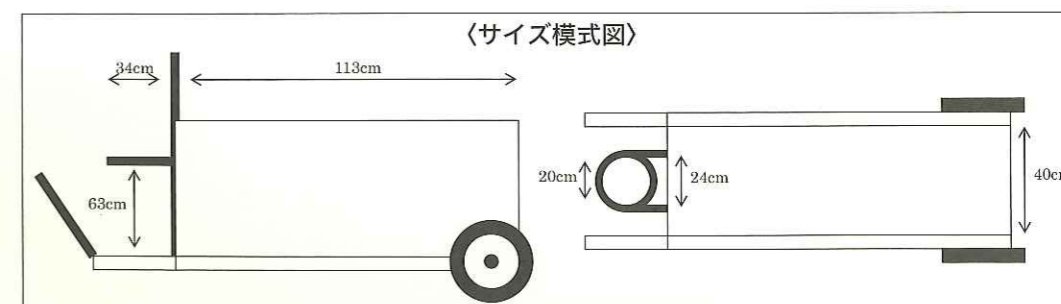
牧野さんは、4戸の酪農家仲間で除角を行っていて、毎回20頭前後の除角を行っています。以前はロープを体に回し牛を倒し、足を縛り上げて行っていました。子牛といってもパワフルなので作業は体力を使い、時間もかかっていました。

そこで既製品の保定枠場にヒントを得て、除角用枠場を手作りしてみようと思いついたといいます。鉄パイプの廃材を組み合わせて溶接して完成した枠場は、サイズもぴったり。鼻先を入れる枠を作っているので、枠に入れて紐で縛ればしっかりと頭を固定することができます。また、取り外し可能な約5cmの床板をたすことで、生まれて間もない小さな子牛にも対応できるように工夫しています。

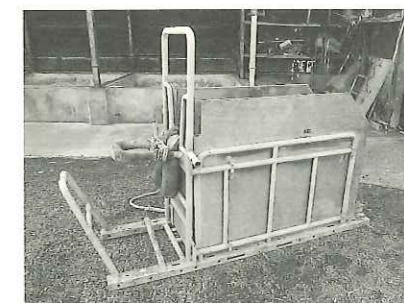
除角用手作り枠場の効果

これまでの牛を押さえながらの作業には3~4人の人手が必要でしたが、枠場に入れてしまえば一人でもあっという間に除角ができます。牧野さんは「スピーディに終わるため、牛へのストレスも少なく安全性も向上した。作業時間は実に半分以下になった」とのこと。

さらに、枠の中央に車輪を付ければ、手で押して移動することができます。また枠の後方に車輪を取り付け、トラックのフックにかければ農場内の移動も簡単にできます。今回の除角もこのアイデア枠場の活躍でスムーズに進み、恒例の全員での昼食ものんびり楽しめたとのこと。日々の作業にも、ちょっとした工夫やアイデアを取り入れる姿勢が大いに役立っています。



(筆者：千葉県農業共済組合連合会 南部家畜診療所)



(写真4) 全景です。基礎に使っているのは電信柱からはずされた廃材



(写真5) 鼻先を入れる穴はパッドで巻いてあります



(写真6) 農場内の移動も楽々です

あいであ & アイデア